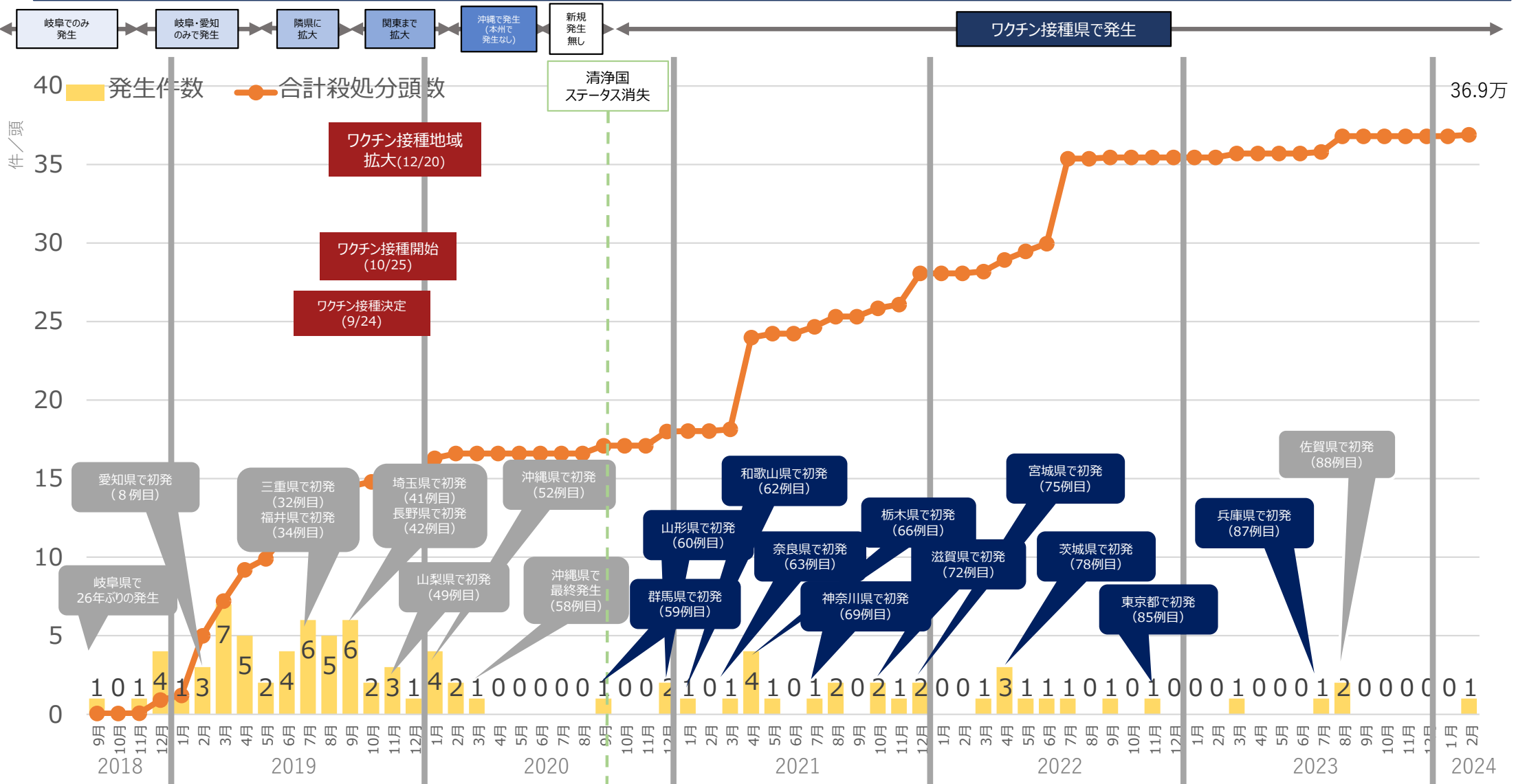


- 2018年9月9日の岐阜県での発生以来、愛知県、三重県、福井県、埼玉県、長野県、山梨県、沖縄県、群馬県、山形県、和歌山県、奈良県、栃木県、神奈川県、滋賀県、宮城県、茨城県、東京都、兵庫県及び佐賀県の**20都県**で計**90事例**発生し、これまでに**約36.9万頭を殺処分**。
- **2019年9月24日にワクチン接種を決定**、10月15日に防疫指針を改訂、**10月25日からワクチン接種開始**。
- **2020年9月3日**にWOAH（国際獣疫事務局）が認定する**豚熱の清浄国ステータスを消失**。
- 群馬県、山形県、三重県、和歌山県、奈良県、栃木県、山梨県、神奈川県、滋賀県、宮城県、茨城県、兵庫県といった**ワクチン接種県においても発生**。



野生いのししでの豚熱対策の概要

(1) サーベイランスの強化

豚熱

アフリカ豚熱

【野生イノシシ検査情報 QRコード】

- 平成30年9月から、**全都道府県**における**野生イノシシ**のサーベイランスを開始。
- 令和2年8月31日に**全都道府県**に向けて**豚熱・アフリカ豚熱のサーベイランスの強化通知**を発出。
- 令和3年11月、新たな遺伝子検査法の導入及び外部委託体制の整備により検査負担軽減。
- 令和4年4月、web上で生産者自ら農場周辺の検査状況を確認可能な新たな地図情報システムを提供。
- 令和5年11月、野生イノシシ死亡個体の耳片を用いた遺伝子検出検査適用により、検査可能個体が拡大。



(2) 捕獲の強化

豚熱

アフリカ豚熱

- 自治体、農林水産省及び環境省が連携し、**豚熱陽性が確認されている県及びその隣接県等46都府県**に「**捕獲重点エリア**」の設定を依頼。

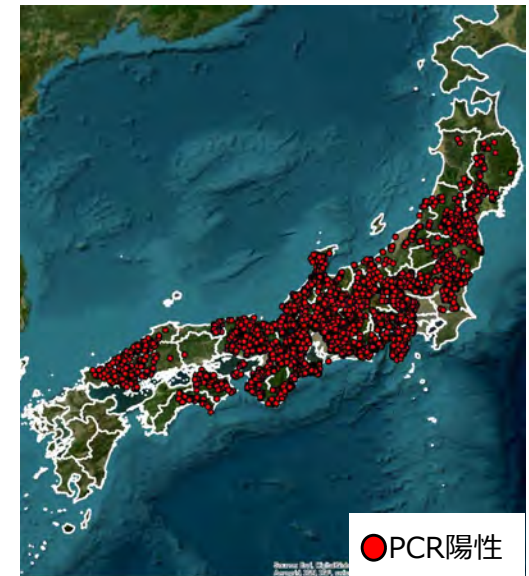
(3) 経口ワクチン散布

豚熱

- 平成31年3月、岐阜県及び愛知県において、経口ワクチン散布を開始。
- 令和3年3月から民間ヘリコプターによる空中散布を実施（静岡県・栃木県）。
- 令和5年3月に散布方法の具体化等のため散布方針を改正。
- 現在、豚熱陽性が確認されている県及びその隣接県等**39都府県**のうち、沖縄県除く**38都府県**で経口ワクチンを散布。

【35都府県で豚熱陽性野生イノシシを確認】

豚熱感染野生イノシシ発見地点
(発見・捕獲日ベース：令和6年3月6日時点)



(4) 感染防止のための周知等の推進

豚熱

アフリカ豚熱

- 山林作業業者や観光客等、山林に立ち入る者に対して、デジタルサイネージ広告の実施や多言語ポスターの提示・配布等により、周知の推進。
- 捕獲従事者に対して交差汚染対策周知のため、映像資材・漫画資材の配布。

(5) 法改正・制度的整理等の対応

豚熱

アフリカ豚熱

- **サーベイランス、経口ワクチン散布等を家伝法に位置付け**（令和3年4月施行）。
- 野生イノシシの死体処理に関する制度的整理及び関係部局の連携強化について、消費・安全局長、農村振興局長、林野庁長官、環境省環境再生・資源循環局長、環境省自然環境局長による**5局庁長連名通知の発出**（令和4年3月）。
- アフリカ豚熱の防疫措置の具体化（防疫指針改正・基本方針の策定（3月末施行予定）、防疫演習の実施等）。

野生いのししサーベイランス検査状況(令和6年3月6日時点)

直近1カ月のサーベイランス検査状況



PCR検査

- PCR陽性
- PCR陰性

0 105 210 420 km

直近6カ月のサーベイランス検査状況



PCR検査

- PCR陽性
- PCR陰性

0 105 210 420 km

野生いのししにおける豚熱の確認状況

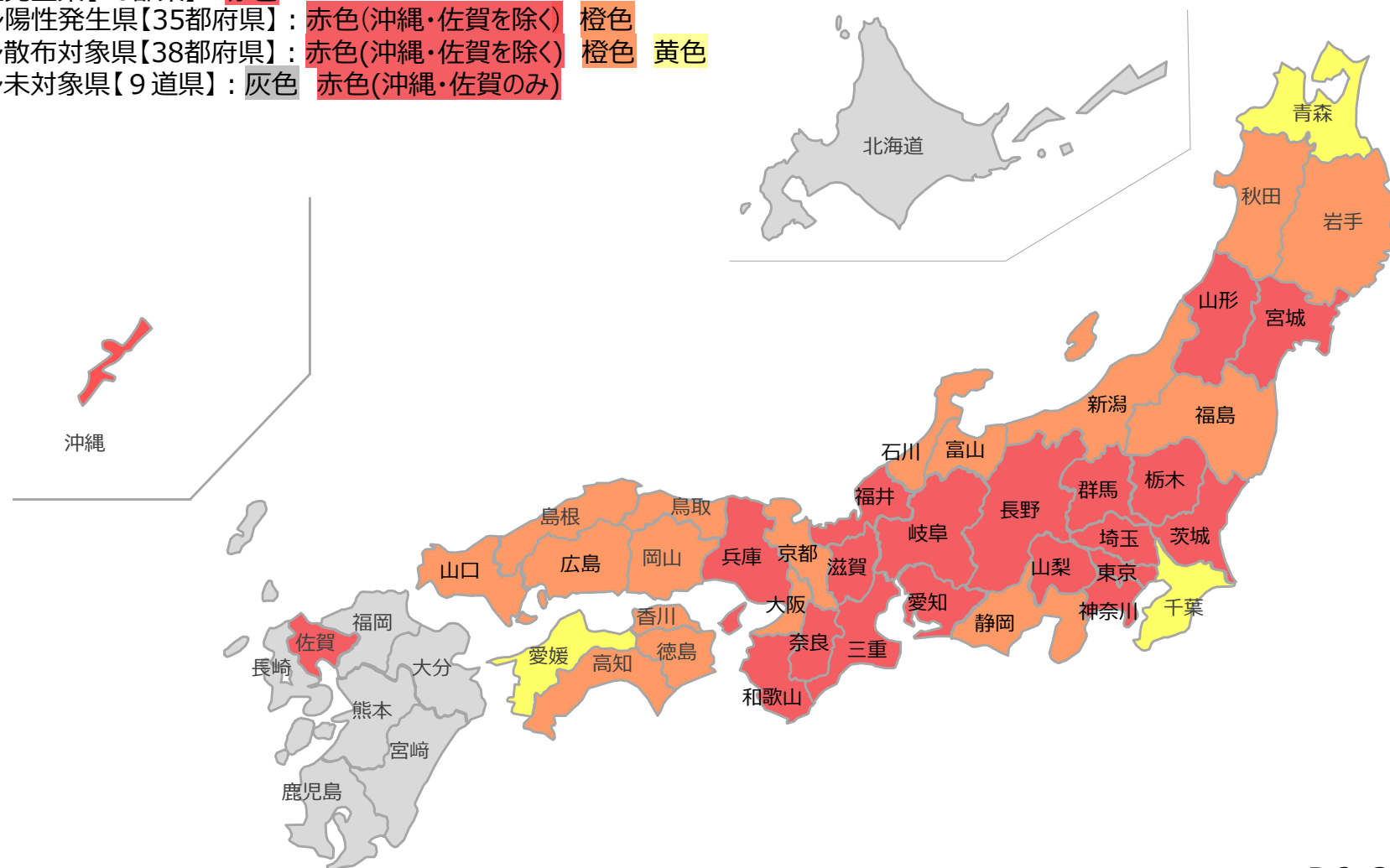
- 平成31年3月、岐阜県及び愛知県において、経口ワクチン散布を開始。
- これまでに豚熱陽性が確認されている県（沖縄県・佐賀県を除く）及びその隣接県等38都府県で経口ワクチン散布のための県協議会が設立され、散布を実施。
- 九州地域では沖縄県を除く7県が経口ワクチン散布に向けた県協議会を設立。

飼養豚陽性発生県【20都県】：赤色

野生イノシシ陽性発生県【35都府県】：赤色(沖縄・佐賀を除く) 橙色

経口ワクチン散布対象県【38都府県】：赤色(沖縄・佐賀を除く) 橙色 黄色

経口ワクチン未対象県【9道県】：灰色 赤色(沖縄・佐賀のみ)



野生いのししサーベイランス検査状況 – 豚熱 –

- 平成30年9月から全都道府県における野生いのししのサーベイランスを開始
 - ※農水省がR3年度以降に最低限必要と通知している検査水準：1県当たり299頭/年
- 過去1年の検査数を令和3年9月末と直近で比較すると、299頭以上に達している都道府県は17県から35県に増加

年度ごと※1の野生いのししにおける豚熱の検査数（カッコ内は陽性率）

検査数が299頭以上
検査数が299頭以上かつ陽性数が0

	R2.10.1～ R3.9.30	R3年度	R4年度	R5年度
北海道	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
青森	5(0%)	6(0%)	8(0%)	49(0%)
岩手	313(0%)	399(0%)	423(22.7%)	528(8%)
宮城	232(12.5%)	484(26.9%)	370(13.8%)	327(16.8%)
秋田	42(0%)	39(0%)	55(12.7%)	91(2.2%)
山形	220(7.3%)	370(32.2%)	278(4.3%)	339(10.6%)
福島	302(7.3%)	214(10.7%)	159(16.4%)	311(13.8%)
茨城	819(12.5%)	981(15.4%)	1168(8.2%)	951(6.2%)
栃木	565(9.2%)	490(17.3%)	633(6.2%)	581(2.6%)
群馬	883(7.6%)	653(4.1%)	961(3.3%)	1084(8.9%)
埼玉	447(1.8%)	538(0.6%)	762(2.9%)	864(3.8%)
千葉	65(0%)	78(0%)	278(0%)	914(0%)
東京	56(7.1%)	89(1.1%)	130(0%)	129(10.9%)
神奈川	566(6.7%)	469(8.3%)	377(10.1%)	320(2.5%)
新潟	205(15.1%)	219(4.6%)	224(3.1%)	307(5.5%)
富山	330(0.6%)	327(0%)	609(1.1%)	1112(1.7%)
石川	239(5.4%)	239(2.9%)	675(2.8%)	726(3.3%)
福井	498(15.3%)	337(13.6%)	402(2.2%)	499(9%)
山梨	187(17.6%)	143(7.7%)	209(0%)	230(1.3%)
長野	692(3.5%)	845(0.5%)	918(0.2%)	938(2.7%)
岐阜	2122(0.7%)	1991(1.3%)	2675(4.2%)	2788(7.6%)
静岡	2676(2.8%)	3003(2.2%)	3912(3.5%)	3919(2.4%)
愛知	787(0.1%)	991(0.7%)	906(3.1%)	896(2.1%)
三重	3004(10.8%)	3763(8%)	4809(3.2%)	3755(2.4%)

	R2.10.1～ R3.9.30	R3年度	R4年度	R5年度
滋賀	473(7.4%)	452(9.1%)	549(5.8%)	636(2.7%)
京都	267(32.6%)	228(33.3%)	51(13.7%)	70(0%)
大阪	25(60%)	13(84.6%)	63(0%)	80(1.3%)
兵庫	496(8.9%)	538(18.2%)	690(10.7%)	394(4.3%)
奈良	138(28.3%)	128(9.4%)	216(1.9%)	253(2%)
和歌山	387(26.6%)	307(28.3%)	306(1.3%)	484(0.2%)
鳥取	215(0%)	301(0%)	416(1.7%)	493(6.1%)
島根	130(0%)	283(0%)	410(14.9%)	484(9.7%)
岡山	49(0%)	70(0%)	540(0%)	307(0.3%)
広島	90(0%)	148(0.7%)	331(5.4%)	301(6%)
山口	8(0%)	292(2.7%)	310(17.7%)	245(11.8%)
徳島	20(0%)	99(0%)	318(8.8%)	178(11.8%)
香川	143(0%)	427(0%)	366(0.5%)	501(9.4%)
愛媛	172(0%)	300(0%)	358(0%)	386(0%)
高知	41(0%)	47(0%)	301(3.7%)	278(9%)
福岡	53(0%)	152(0%)	636(0%)	276(0%)
佐賀	23(0%)	60(0%)	349(0%)	479(0%)
長崎	45(0%)	67(0%)	315(0%)	304(0%)
熊本	61(0%)	127(0%)	304(0%)	396(0%)
大分	66(0%)	231(0%)	325(0%)	403(0%)
宮崎	56(0%)	326(0%)	316(0%)	471(0%)
鹿児島	22(0%)	151(0%)	305(0%)	385(0%)
沖縄	8(0%)	7(0%)	65(0%)	312(0%)
合計	18243(6.9%)	21422(6.5%)	28781(4.1%)	29774(4.1%)

※1：R3年度以前はR2年10月1日からの1年間、R3年度・R4年度は4月1日から3月31日までの1年間、R5年度はR5年4月1日からR6年3月6日までを集計

野生いのししサーベイランス検査状況 – アフリカ豚熱 –

○平成30年9月から**全都道府県における野生いのししのサーベイランスを開始**

※農水省がR3年度以降に最低限必要と通知している検査水準：1県当たり299頭/年

○299頭に達している都道府県は、令和2年度6県、令和3年度16県、令和4年度31県、令和5年度33県と増加

年度ごと※1の野生いのししにおける**アフリカ豚熱**の検査数 ：検査数が299頭以上

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度 (～3月6日)
北海道	0	0	0	0
青森	4	6	8	49
岩手	136	399	416	528
宮城	142	484	350	327
秋田	40	39	52	91
山形	173	370	278	339
福島	195	210	49	311
茨城	586	981	1102	951
栃木	516	494	554	560
群馬	20	653	931	1084
埼玉	91	538	752	864
千葉	79	78	249	914
東京	10	3	2	7
神奈川	381	462	356	320
新潟	245	219	219	307
富山	226	261	588	1112
石川	304	239	630	726
福井	31	55	274	467
山梨	52	143	196	230
長野	39	2	914	938
岐阜	133	302	284	275
静岡	2318	3003	3702	3919
愛知	126	217	311	613
三重	43	9	4673	3755

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度 (～3月6日)
滋賀	556	452	526	541
京都	25	22	51	70
大阪	9	13	63	80
兵庫	112	78	53	15
奈良	34	82	203	253
和歌山	236	307	280	484
鳥取	91	301	353	493
島根	5	283	367	484
岡山	40	70	539	307
広島	6	148	329	301
山口	4	292	308	245
徳島	20	99	311	178
香川	20	427	365	501
愛媛	72	300	344	386
高知	0	47	297	278
福岡	14	152	622	276
佐賀	13	49	348	479
長崎	41	67	306	304
熊本	58	127	297	396
大分	34	231	314	403
宮崎	59	326	315	471
鹿児島	37	151	296	385
沖縄	7	7	64	312
合計	7383	13198	23841	26329

※1：R2年度からR4年度は4月1日から3月31日までの1年間、R5年度はR5年4月1日からR6年3月6日までを集計

アフリカ豚熱の感染拡大状況（2007年以降）

アフリカ豚熱の発生拡大状況（2007年～）



韓国におけるアフリカ豚熱の発生状況

韓国で北部から南部へと徐々に発生が拡大していた中で、**昨年12月に釜山広域市で急に野生イノシシでの感染が確認**され、1月には、**日本に向かうフェリーターミナルに近い場所でも野生イノシシでの感染が確認**。

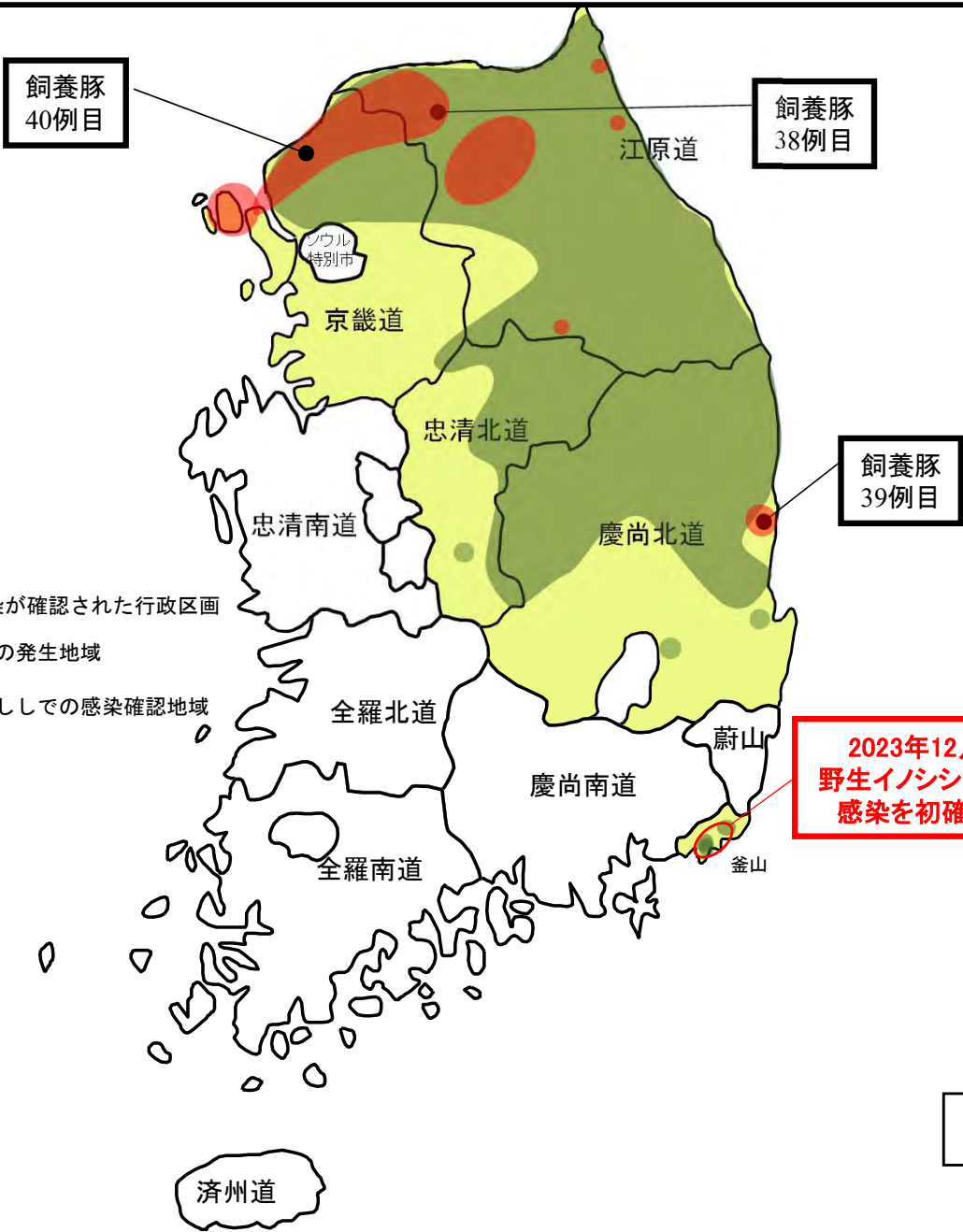
【飼養豚での事例】

事例	発生日	発生地域
1	2019/9/16	京畿道坡州市
2	2019/9/17	京畿道漣川郡
3	2019/9/23	京畿道金浦市
4	2019/9/23	京畿道坡州市
5	2019/9/24	仁川広域市江華郡
6	2019/9/25	仁川広域市江華郡
7	2019/9/25	仁川広域市江華郡
8	2019/9/26	仁川広域市江華郡
9	2019/9/26	仁川広域市江華郡
10	2019/10/1	京畿道坡州市
11	2019/10/1	京畿道坡州市
12	2019/10/2	京畿道坡州市
13	2019/10/2	京畿道金浦市
14	2019/10/9	京畿道漣川郡
15	2020/10/8	江原道華川郡
16	2020/10/9	江原道華川郡
17	2021/5/4	江原道寧越郡
18	2021/8/7	江原道高城郡
19	2021/8/15	江原道麟蹄郡
20	2021/8/25	江原道洪川郡
21	2021/10/5	江原道麟蹄郡
22	2022/5/26	江原道洪川郡
23	2022/8/18	江原道楊口郡
24	2022/9/18	江原道春川市
25	2022/9/19	江原道春川市
26	2022/9/28	京畿道金浦市
27	2022/9/28	京畿道坡州市
28	2022/11/9	江原道鉄原郡
29	2023/1/5	京畿道抱川市
30	2023/1/11	江原道鉄原郡
31	2023/1/22	京畿道金浦市
32	2023/2/11	江原道襄陽郡
33	2023/3/19	京畿道抱川市
34	2023/3/29	京畿道抱川市
35	2023/3/31	京畿道抱川市
36	2023/4/13	京畿道抱川市
37	2023/7/18	江原道鉄原郡
38	2023/9/25	江原道華川郡
39	2024/1/15	慶尚北道盈徳郡
40	2024/1/18	京畿道坡州市

初発生日：2019年9月16日

発生数（豚）：**40件**
感染数（野生いのしし）：**3,731件**

豚、いのしし飼養頭数：約 1,122万頭



【野生イノシシでの事例】

(単位：件)

京畿道	坡州市	100
	漣川郡	418
	抱川市	94
	加平郡	62
	鉄原郡	37
江原道	華川郡	426
	春川市	222
	楊口郡	81
	麟蹄郡	158
	高城郡	12
	寧越郡	248
	襄陽郡	36
	江陵市	110
	洪川郡	63
	平昌郡	46
忠清北道	東草市	1
	旌善郡	179
	横城郡	63
	三陟市	99
	原州市	83
	太白市	19
	東海市	8
	丹陽郡	176
	堤川市	91
	報恩郡	73
慶尚北道	槐山郡	12
	陰城郡	1
	忠州市	105
	尚州市	110
	蔚珍郡	64
	聞慶市	64
	栄州市	13
	醴泉郡	12
	奉化郡	78
	盈徳郡	104
慶尚南道	安東郡	33
	英陽郡	82
	青松郡	75
	浦項市	33
	永川市	21
	義城郡	3
	釜山広域市	16
合計		3,731

※ 韓国当局公表資料等の情報を元に作成
飼養頭数：FAO統計(2021)による

2024年3月4日時点

韓国・釜山広域市での野生いのししASF感染確認状況



アフリカ豚熱対策の更なる強化①（水際対策の徹底）

出国前から日本に持ち込ませない

- 釜山から日本に直行する全てのフェリー等（５社）における、船内アナウンスによる畜産物持ち込み禁止・罰則に関する注意喚起や注意すべき取組を示したポスターの船内掲示等の実施。また、韓国から日本への直行便のある航空会社についても、14社全てが機内アナウンスによる注意喚起等を実施。
- 在外公館による韓国出国前の旅行者に対するSNSを利用した情報発信・旅券発券時のリーフレット配布等を継続的に実施。関係団体を通じ、旅行代理店、技能実習生等への注意喚起と情報発信。
- 訪日韓国人旅行者に影響力を持つ人気韓国人ブLOGGERから、畜産物持ち込み禁止及び靴や自転車の泥を落とすこと等についての情報発信。

＜大臣による注意喚起＞



＜空港等での注意喚起＞



空海港における対策

- 韓国からの全ての船舶及び航空便に対して、家畜防疫官による検査を実施中。釜山からの船舶に対しては全ての旅客に口頭質問を実施し、トレッキングシューズ、ゴルフシューズ等の要消毒物品に対して対応を確実に実施し、検疫探知犬についても可能な限り活動回数を増加。航空便に対してはさらに検疫探知犬の活動回数を増加。
- 従来から国際線が就航する全ての空海港に靴底消毒マットを設置。旅客の靴底や自転車等に対して十分な効果がある消毒を実施できるよう、適切な濃度の消毒液の活用や消毒マットの効果的な配置。
- 関係機関、航空関係者、港湾関係者と連携し、釜山定期旅客船の就航する４港（下関港、博多港、比田勝港、大阪港）においては、車両、自転車等の消毒を実施。フェリーに搭載される車両について、乗船前の消毒を実施するよう船舶会社に依頼。畜産関係車両については入国時にも車両消毒を実施。
- 国内線における靴底消毒マットの設置について、都道府県に改めて実施依頼。

野生イノシシ等への感染防止対策

- 釜山広域市と主要な定期フェリー航路を有している県を中心に、韓国人旅行者の立ち寄り場所などリスクの高い場所を特定して、効果的に野生イノシシ等への侵入防止対策を新たに実施。
- １月に全国の担当者を対象として会議を開催し、観光地やレクリエーションなどの訪日旅行者の立ち寄り場所について分析中。空海港や農場周辺のみならず、バスやレンタカー等、都市部や河川敷などにおける、ポスター掲示等による注意喚起やゴミ箱の設置や管理の徹底、消毒の実施など必要な対策を各都道府県で実施。

アフリカ豚熱対策の更なる強化②（野生イノシシ対策、飼養衛生管理）

野生イノシシ対策 （国内で広げない）

- ・ 死体を衛生的に処理する必要がある、万が一の侵入時に備えた**野生イノシシにおける死体処理等の初動対応について、基本方針案を公表**。
- ・ 早期に発見できるよう、**サーベイランス**による野生イノシシにおける浸潤状況を引き続き把握。
- ・ 実際の感染を確認した場合を想定し、**農研機構、県などの関係者の協力を得ながら死体処理や運搬方法等を検証するための防疫演習**を農林水産省において実施。
- ・ **万が一野生イノシシへ侵入した際に必要となる特殊な防疫資材（簡易電気柵、納体袋）等を備蓄**。また、各都道府県においても**アフリカ豚熱に関する防疫演習が実施できるよう支援**。
- ・ 一般登山者向けの動画を通じ、**登山等による感染拡大防止対策として、畜産物を含む廃棄物の適切な処理や、登山靴の洗浄消毒等について周知**。

<侵入時に備えた防疫演習>



<一般向け動画の公表>



↑動画はこちら
@maffchannel

飼養衛生管理 （農場に入れない）

- ・ 豚熱と異なり実用性が確認された**ワクチン**は無いため、**飼養豚への感染予防対策は飼養衛生管理の徹底**が何よりも重要。
- ・ 生産者をはじめとする関係者に対して**侵入リスクが高まっている危機感を共有し、農場における飼養衛生管理の徹底等**について改めて指導。
- ・ 万が一の侵入時に的確な初動対応ができるよう、**都道府県における防疫体制を関係部局と連携し構築**するなどの万が一に備えた準備をすすめるよう改めて通知。

<生産者向けの注意喚起資料>

